

1. 文学 [図表P. 187①] ㉔

- ☆1 ^{かみがた}上方の新興町人・武士層を中心に文芸が発展。2 ^{いはらさいかく}井原西鶴は大坂町人、
3 ^{まつお ばしよ}松尾芭蕉は伊賀の下級武士、4 ^{ちかまつもん さ えもん}近松門左衛門は越前から京都に移住した武士階級の出身であった。
①浮世草子…現世に否定的で教訓を主とする5 ^{か な ぞう し}仮名草子と異なり、現実を肯定し、人間の物欲をありのままに描いた。 (P. 185)

〈井原西鶴〉

- 【好色物】『6 ^{こうしよくいちだいおとこ}好色一代男』…7歳で性に目覚めた世之介の一代記。
【町人物】『7 ^{にほんえいたいくら}日本永代蔵』…勤勉・儉約で成功する町人の話。三井の商法も紹介。
『^{せけんむねさんよう}世間胸算用』…大晦日の町人の悲喜劇を描く。 [史料87]
【武家物】『^{ぶだうでんらいき}武道伝来記』…武家の敵討ちを描く。
『^{ぶかぎやうりものがたり}武家義理物語』…武家社会の義理・犠牲的精神を描く。

- ②俳諧…江戸初期に^{まつながていとく}松永貞徳が俳諧の規則を整えて^{ていもん}貞門派が起こったのち、8 ^{にしやまそういん}西山宗因が始めた自由で平易な句風の^{だんりんぱ}談林派を経て、^{まつお ばしよ}松尾芭蕉はしおり、さびなどの美意識に基づく芸術性の高い9 ^{しょうふう}蕉風 (^{しょうふう}正風)俳諧を確立した。 [図表P. 187①] ㉔

〈松尾芭蕉〉

- 『10 ^{おくのほしち}奥の細道』…東北・北陸地方を門弟・^{そら}曾良とともに歩いた紀行文 [図表P. 187①] ㉔
『^{おひ}笈の小文』…関西方面から阿波に及ぶ紀行文。
『^{ざるみの}猿蓑』…芭蕉やその一門による句集の中でもっとも著名。
③脚本…当時流行した人形浄瑠璃、歌舞伎で演じられる。

〈近松門左衛門〉 恋愛と義理と金銭を絡めて描く。

- 【時代物】『11 ^{こくせん や がつせん}国姓爺合戦』…清に滅ぼされた明を復興する^{ていせいこう}鄭成功の姿を描く。
【世話物】『12 ^{そねざきしんじゆう}曾根崎心中』…手代の徳兵衛と遊女お初の心中事件。
『^{しんちゅうてんのかみ}心中天の網島』…大坂天満の紙商人と遊女との心中事件。
『^{まじちゆう}真途の飛脚』…飛脚屋の養子と遊女の駆け落ち事件。

2. 芸能

①人形浄瑠璃

- ◇13 ^{たけもとぎ だゆう}竹本義太夫…人形浄瑠璃の語り手 (浄瑠璃太夫)。彼の創始した語りは、
14 ^{ぎだゆうぶし}義太夫節とよばれ、現在も人形浄瑠璃界の主流となっている。

- ◇^{たつまつはちろ べえ}辰松八郎兵衛…人形遣いの名手。竹本義太夫と協力して人形芝居を興行。

②歌舞伎

〈江戸〉勇壮な演技 (荒事) を得意とする15 ^{いちかわだんじゆうろう}市川團十郎

〈大坂〉色男役の優美な演技 (和事) を得意とする16 ^{さか たとうじゆうろう}坂田藤十郎

女形芸の大成者といわれる17 ^{よしざわ}芳沢あやめ

◇ 図表 P. 187の最初に「元禄文化」という表題のついた青い枠で囲われた部分があります。「担い手」や「中心地」などをここで抑えるとともに江戸時代の四期の文化の時期やそれぞれの文化の中心地もここで確認しましょう。

◇ プリントで学習をしたあとに「NHK高校講座 日本史」を検索して、済んだ範囲の番組を見るという手もあります。ホームページではアーカイブとして一年分の番組を視聴できます。私の場合ですが、学習した後で映像で見る方が内容が入ってきて眠くならないので既習範囲の映像を見ることをおすすめしたいです。このプリントの終了後であれば、「2学期」をクリックすると出てくる「幕府政治の進展と元禄文化」ですね。各回20分と手頃で、3問と問題数は少ないですが、よくできた「理解度チェック」にも挑戦できます。お試しください。

◇ 歌舞伎といえばその創始者は桃山文化期に登場した^{いづものおくに}出雲阿国でした。阿国歌舞伎を紹介した教科書 P. 168②に書かれていたことと同じ内容のものが、教科書 P. 213②にもまた出てきています。この繰り返し出てくる内容を皆さん把握していたでしょうか。歌舞伎は最初女性だけで演じられていました (「女歌舞伎」)。今でいうなら「宝〇歌劇団」だったわけです。ただ現在と違うのがその客層でした。宝〇は (おそらく) 観客の大半が女性で、憧れのまなざしで演者を見つめていると想像されます。それに対して女歌舞伎の観客は男性たちでした。その雰囲気は想像に任せますが、風俗の乱れを嫌う幕府はこれを禁止します。そして登場したのが成年前の美少年たちだけで演じられる歌舞伎「^{わかしゆかぶき}若衆歌舞伎」でした。今でいうなら「〇ヤ〇ーズ」r) みたいなもんです。ただ現在と違うのがその客層でした。「〇ヤ〇ーズ」r) のファンは (おそらく) 大半が女性で、憧れのまなざしで歌や踊りを見つめているに違いありません。それに対して若衆歌舞伎の観客はいい年をした男性たちでした。その雰囲気は想像に任せますが、風俗の乱れを嫌う幕府はこれを禁止します。そして成年男子だけからなる「^{やろうかぶき}野郎歌舞伎」の登場となって今につながるのです。